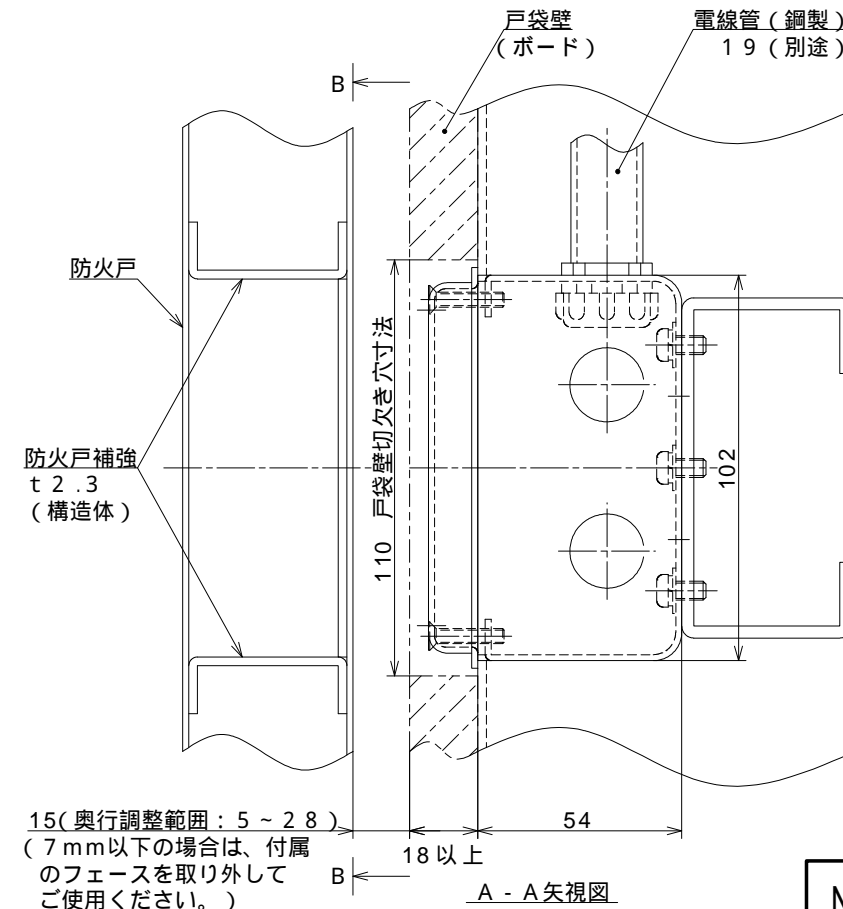
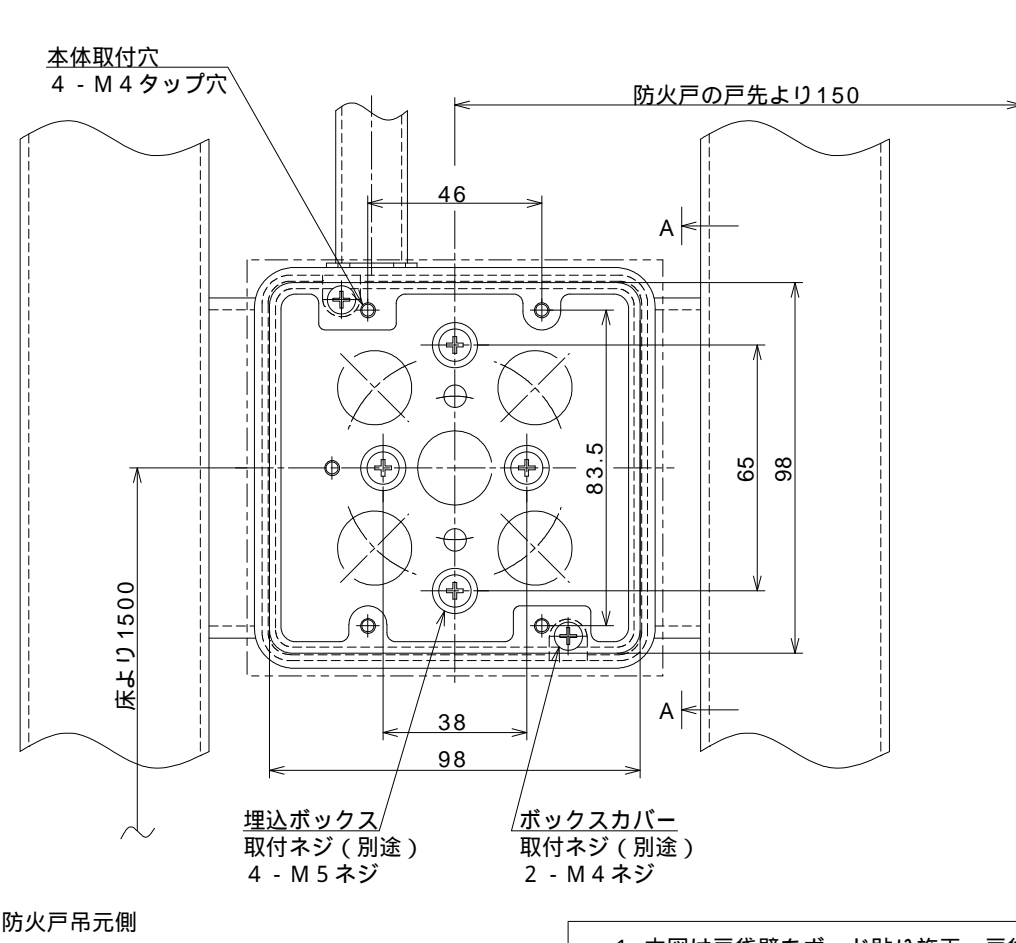
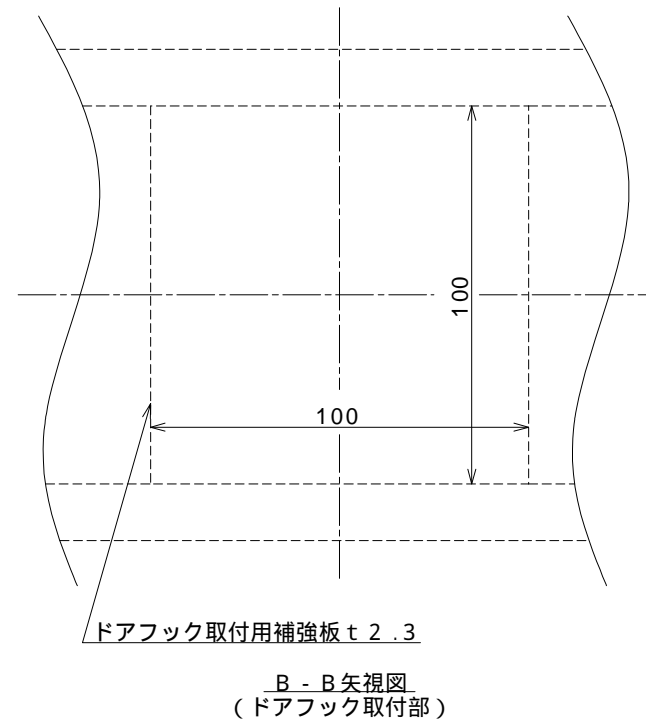
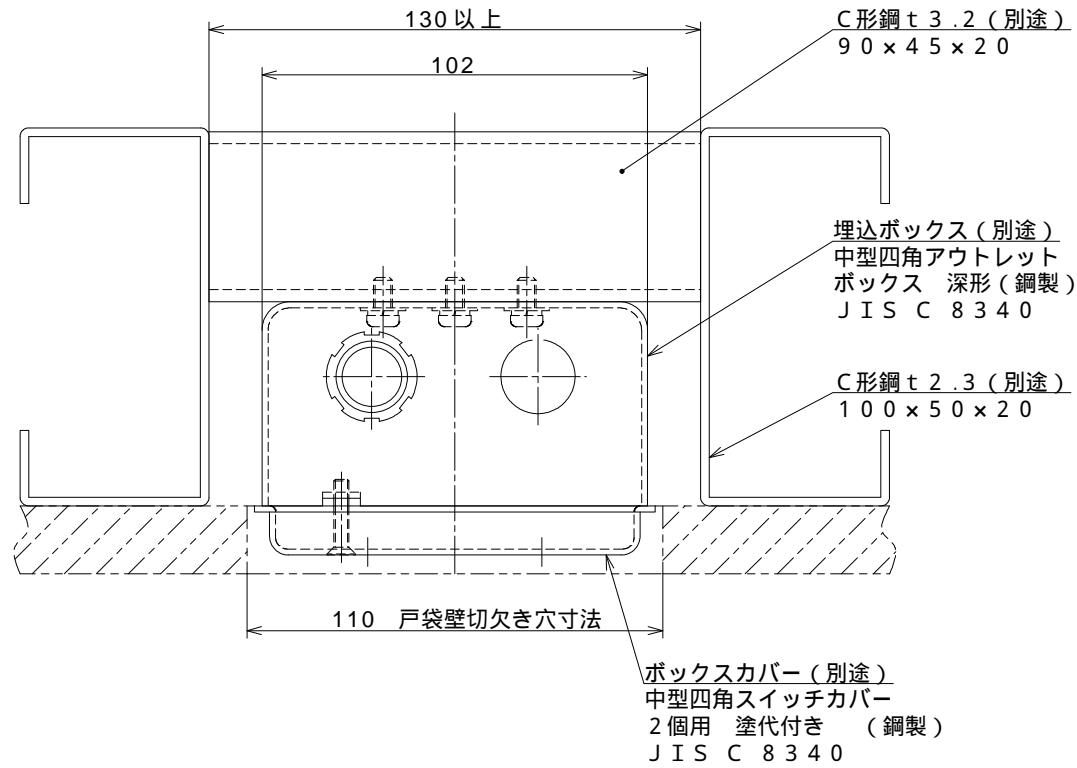


戸袋壁施工例



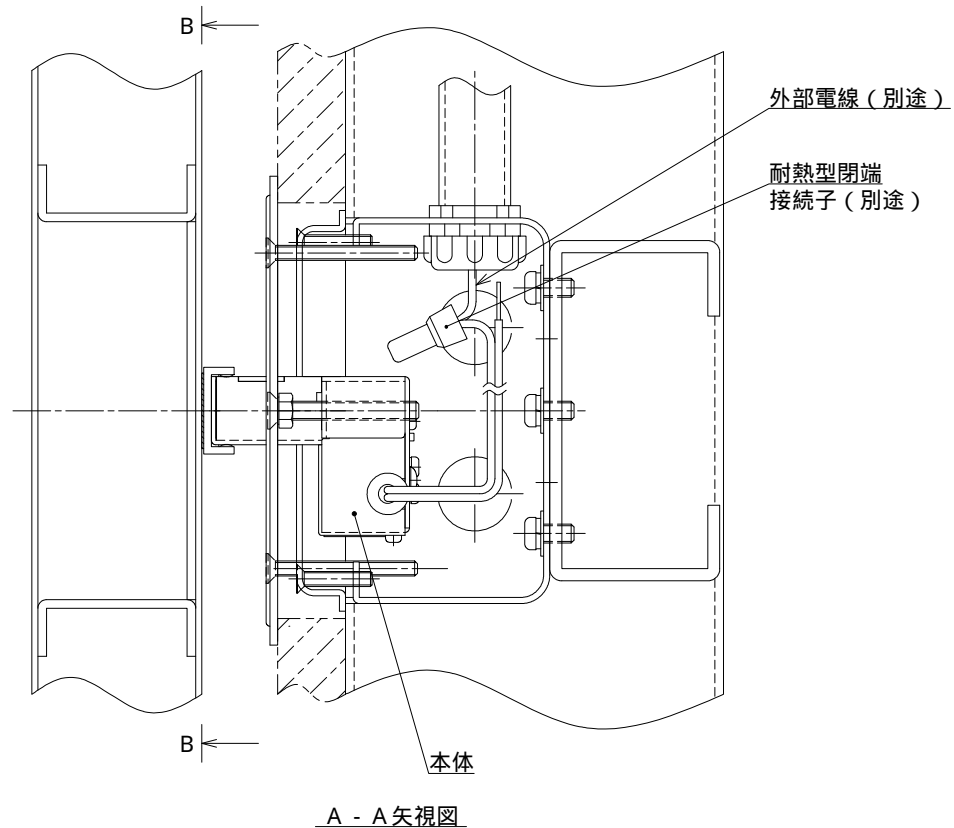
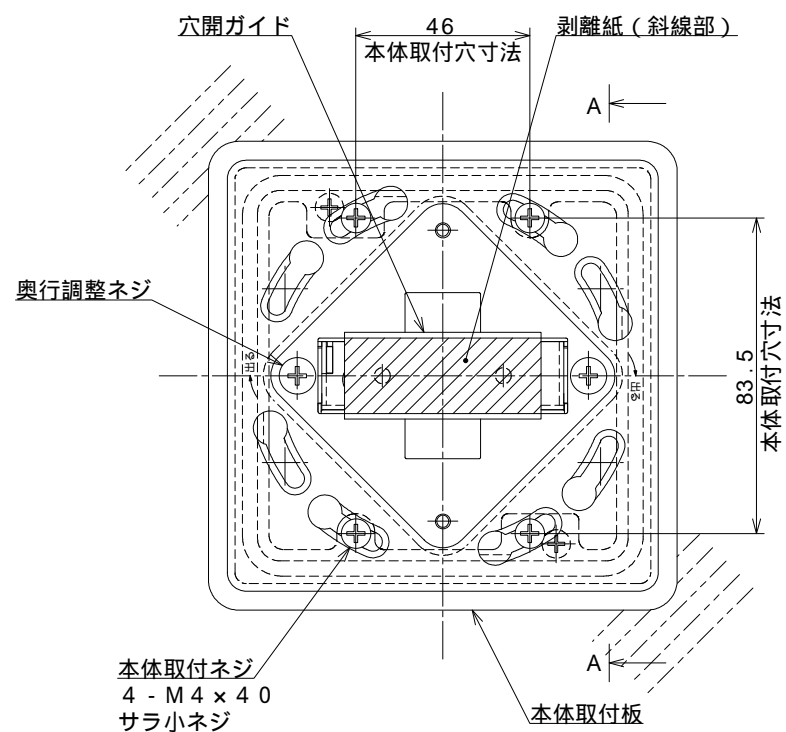
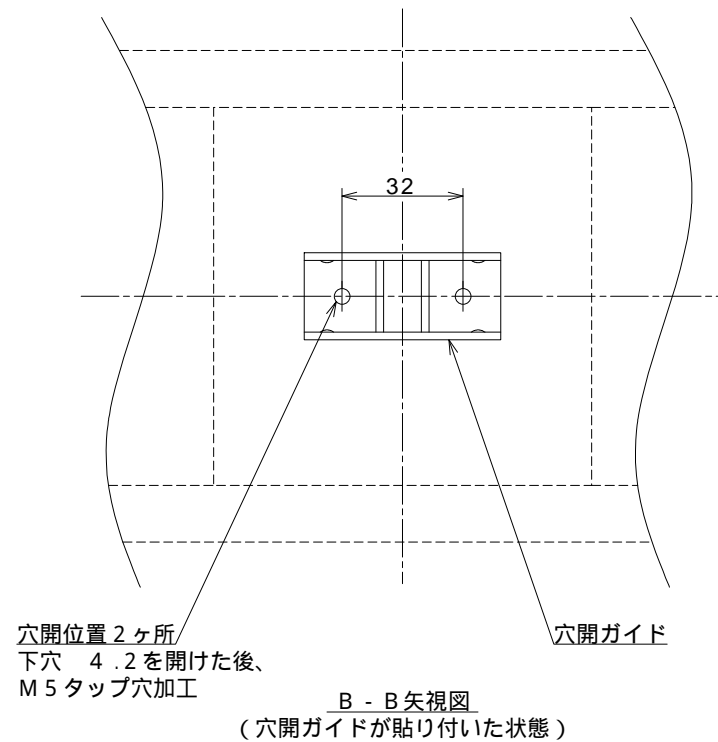
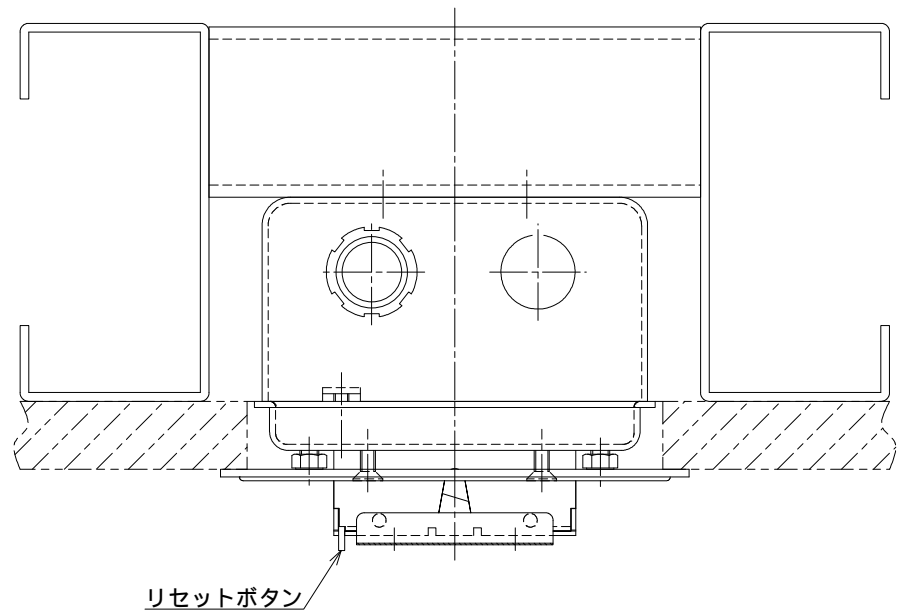
1 本図は戸袋壁をボード貼り施工、戸袋壁 (ボード) の厚みは18mm、埋込ボックスは中型四角アウトレットボックス深形、ボックスカバーは中型四角スイッチカバー2個用塗代付き、防火戸と戸袋壁 (ボード) の奥行きは15mmを基準として表示します。

N-78B型電磁リリース 取付要領図1/6

尺度	1/2	承認	三枝 2012.07.23	検図	清水 2012.07.23	設計	市川 2012.07.23
----	-----	----	------------------	----	------------------	----	------------------

ニッケイ株式会社 図番 AR-31615-a

ドアフック取付穴加工図



『 1 ドアフック取付穴加工方法 』

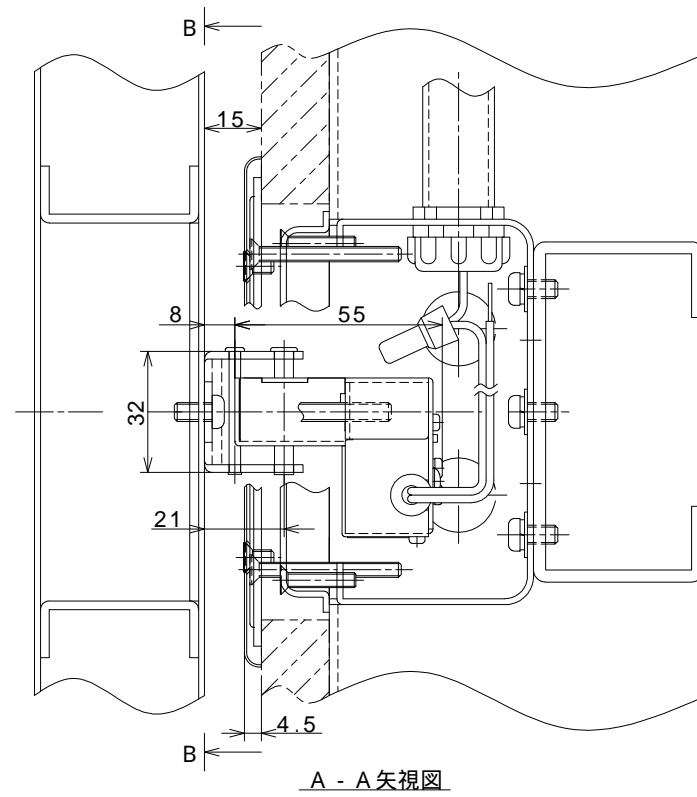
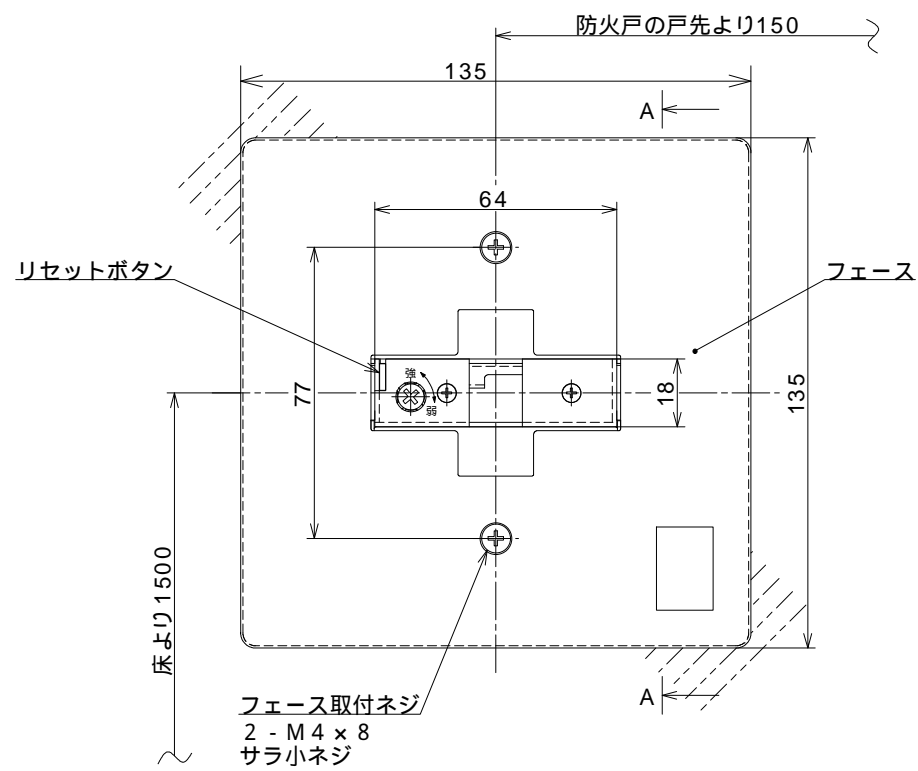
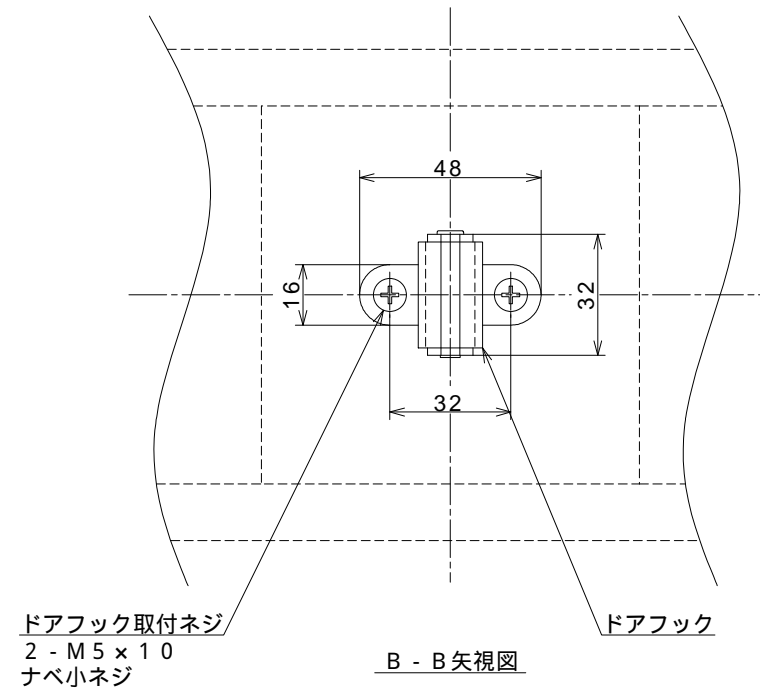
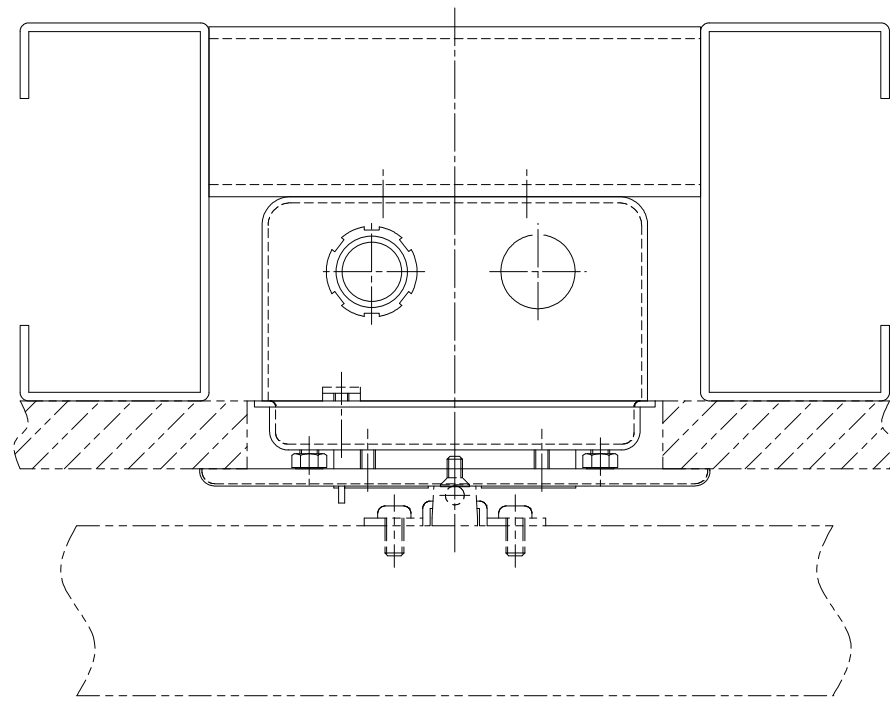
- 1) 本体を戸袋壁側の埋込ボックス(中型四角アウトレットボックス深形)に取り付けてください。
- 2) 付属の穴開ガイドを本体のドアフック保持部に取り付けてください。
取り付け後、穴開ガイドが左右にずれて動かないことを確認してください。
- 3) 穴開ガイド裏面の剥離紙(斜線部)を剥がし、防火戸を戸袋壁側に移動させると穴開ガイドが防火戸に貼り付きます。
穴開ガイドが防火戸に貼り付かない場合は、本体の奥行調整ネジを回し(2奥行調整方法をご参照ください。)防火戸側に本体を出して、穴開ガイドが防火戸に貼り付くように調整してください。
- 4) 穴開位置(2ヶ所)にドアフック取付ネジ用の下穴 4.2を開けてから、穴開ガイドを防火戸から剥がし、M5ネジ用のタップ穴加工を行ってください。使用后、穴開ガイドは廃棄してください。

N-78B型電磁リリース 取付要領図2/6

尺度	1/2	承認	三枝 2012.07.24	検図	清水 2012.07.24	設計	市川 2012.07.24
----	-----	----	------------------	----	------------------	----	------------------

ニッケイ株式会社 図番 AR-31616

本体・ドアフック納まり図

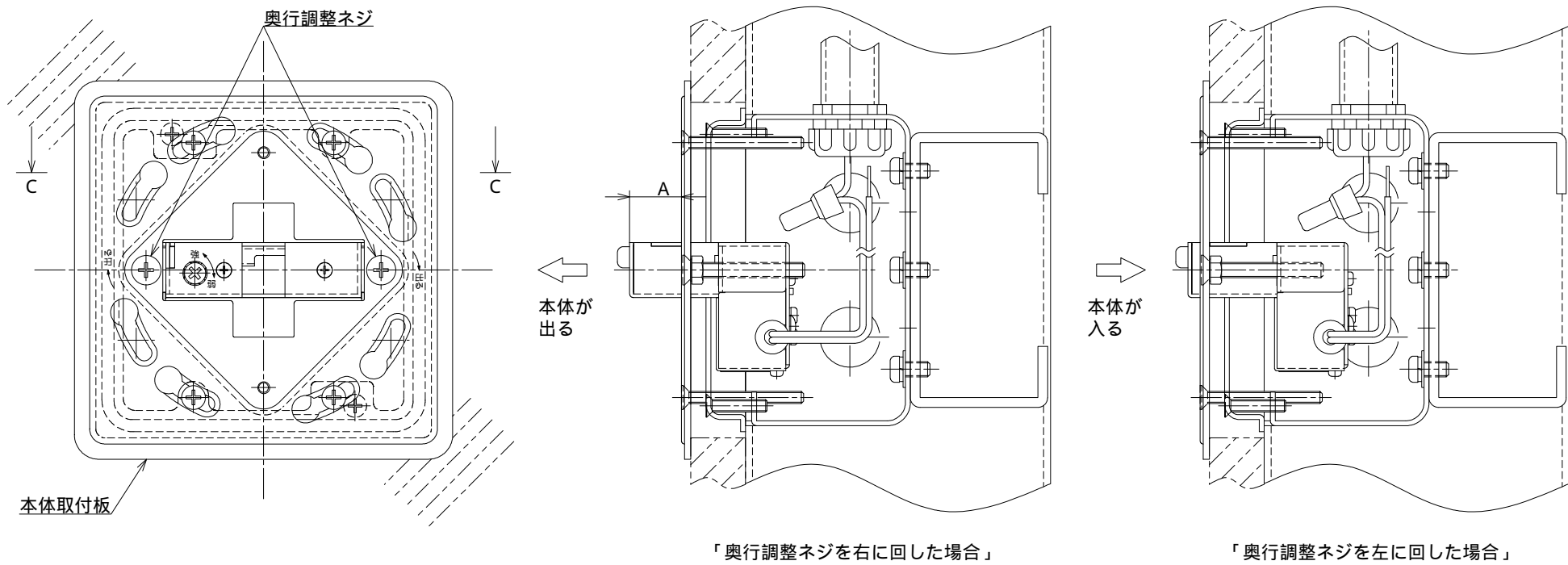


N-78B型電磁リリース 取付要領図3/6

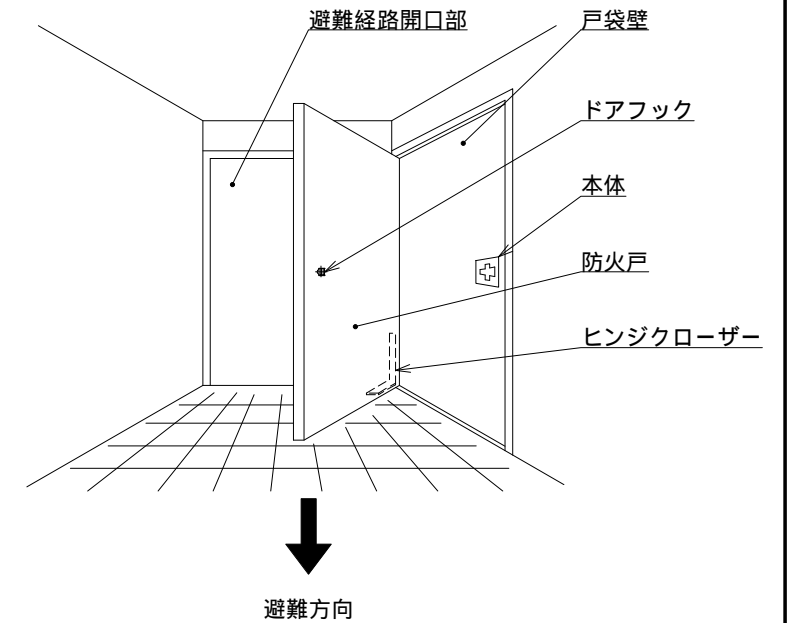
尺度	1/2	承認	三枝 2012.07.25	検図	清水 2012.07.25	設計	市川 2012.07.25
----	-----	----	------------------	----	------------------	----	------------------

ニッケイ株式会社 図番 AR-31617

奥行調整方法

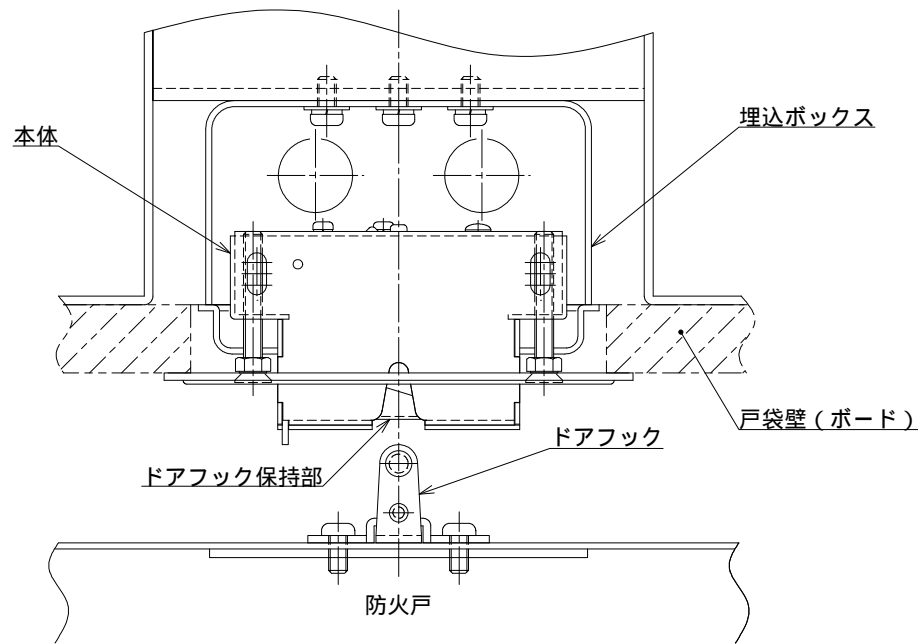


取付概要図

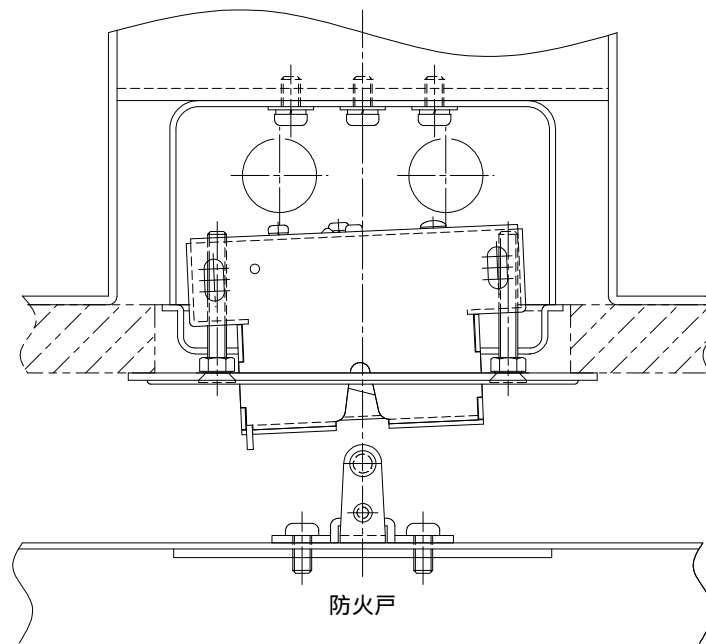


工場出荷時は本体取付板からドアフック保持部まで約10mm (A) に設定されていますが、ドアフック取付穴加工時や、本体とドアフックが連結しない場合に本体の奥行調整を行ってください。

- 『 2 奥行調整方法 』
- 1) プラスドライバーで本体の奥行調整ネジ (左右2ヶ所) を交互に均等に回して、調整をしてください。その際、必ず防火戸と本体のドアフック保持部が面一 (平行) になるようにしてください。
 右 (時計方向) に回すと本体が防火戸側 (ドアフック取付側) に出てきます。
 左 (反時計方向) に回すと本体が戸袋壁側 (埋込ボックス側) に入ります。
 - 2) 防火戸と戸袋壁 (ボード) との奥行きは、5 ~ 28mmまで奥行調整ネジにて調整可能です。



「防火戸と本体のドアフック保持部が面一 (平行) になっている。」



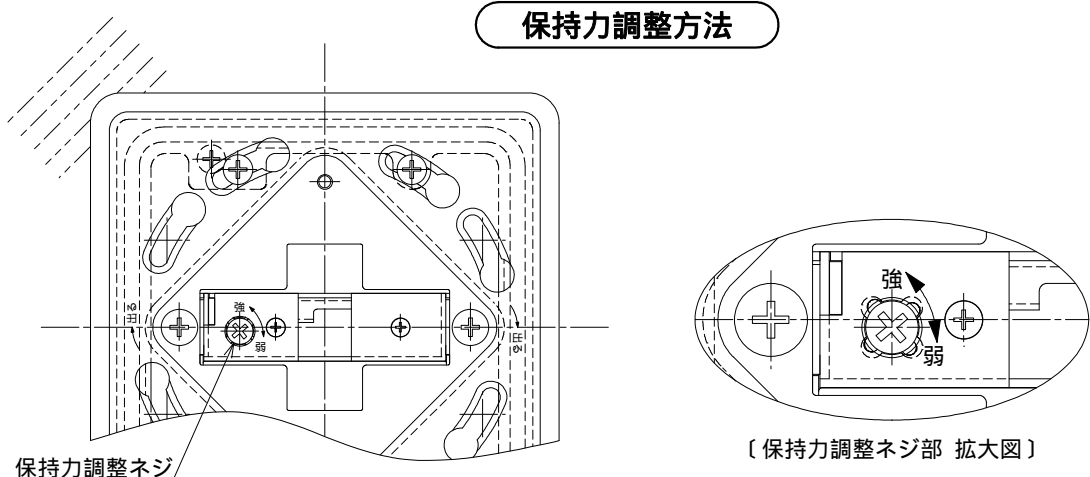
「防火戸と本体のドアフック保持部が面一 (平行) になっていない。」

N-78B型電磁リリース 取付要領図4/6

尺度	1/2	承認	三枝	検図	清水	設計	市川
			2012.08.03		2012.08.03		2012.08.03

ニッケイ株式会社 図番 AR-31618

保持力調整方法



工場出荷時の本体の保持力は約200Nに設定されていますが、本体とドアフックが連結しても防火戸が開放保持（ストップ）しない場合や、手動にて防火戸の開放保持（ストップ）を解除できない場合に、保持力の調整を行ってください。開放保持（ストップ）後（保持力調整後を含む）には、必ず手動による閉鎖確認を行ってください。

3 保持力調整方法

1) 保持力の調整は手回しプラスドライバーを使用し、保持力調整ネジを半回転または1/4回転づつ回して調整をしてください。その際、保持力調整ネジには回り止めの突起がありますので、軽く押しながら回してください。

左（反時計方向）に回すと保持力が強くなり、右（時計方向）に回すと保持力が弱くなります。工場出荷時の本体の保持力（約200N）状態を基準に保持力調整ネジを左に4回、回してストップした位置が最大の保持力になります。それ以上、無理に回すと保持力調整ネジが破損しますので回さないでください。

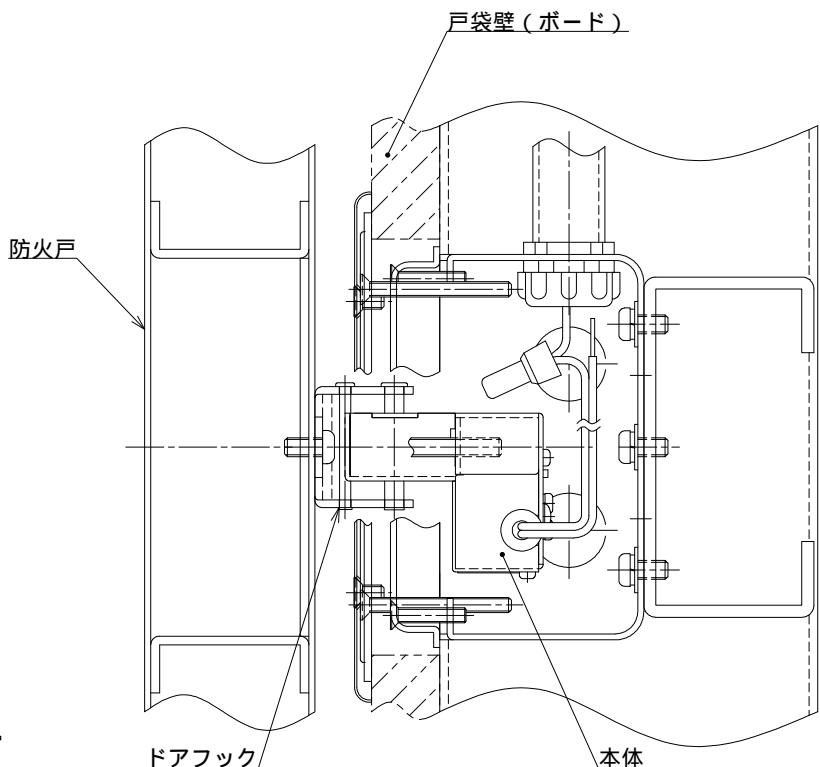
工場出荷時の本体の保持力（約200N）状態を基準に保持力調整ネジを右に3回、回した位置が最小（ゼロ）の保持力になります。それ以上、回し続けると保持力調整機構部が破損しますので回さないでください。

2) 保持力調整後は防火戸を数回開閉させて、確実に開放保持（ストップ）すること及び、閉鎖することを確認してください。

作動説明図

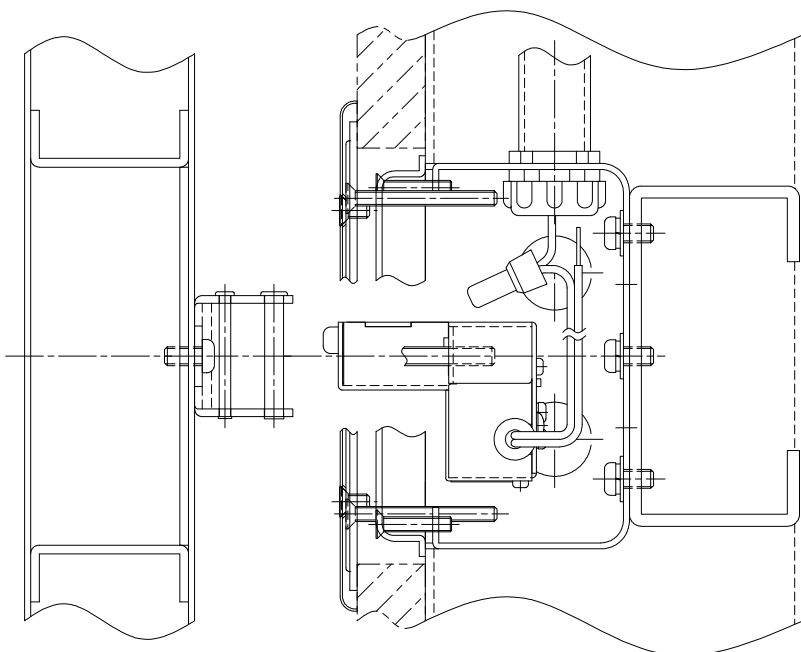
1. 戸袋収納状態（作動前）

戸袋に収められた防火戸は、戸袋壁（ボード）の埋込ボックスに取り付けた本体と防火戸に取り付けたドアフックが保持し、防火戸を開放保持（ストップ）しています。

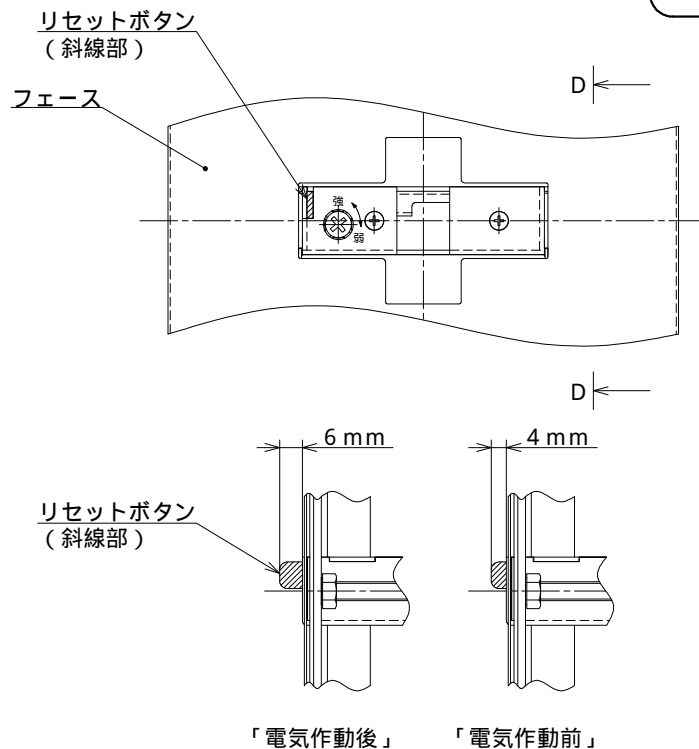


2. 戸袋から解放された状態（作動後）

火災の際、熱または煙感知器が感知し、連動制御器からの電気作動信号により、本体とドアフックの保持が外れて防火戸の開放保持（ストップ）が解除されます。解放された防火戸は、ヒンジクローザーの閉扉力で閉鎖を始めます。また、防火戸の開放保持（ストップ）を手動で解除する場合は、防火戸を開放保持（ストップ）している以上の力で戸袋より引き出すことで、本体とドアフックの保持が外れて開放保持（ストップ）が解除されます。



本体操作方法



D - D 矢視図

防火戸の開放保持（ストップ）解除方法（防火戸作動状態）

火災等の非常時や定期点検時に連動制御器からの電気作動信号により、本体が作動して防火戸の開放保持（ストップ）を解除します。また、手動で開放保持（ストップ）を解除する場合は、防火戸を開放保持（ストップ）している以上の力で防火戸を戸袋より引き出すことで解除できます。詳細は『作動説明図』をご参照ください。

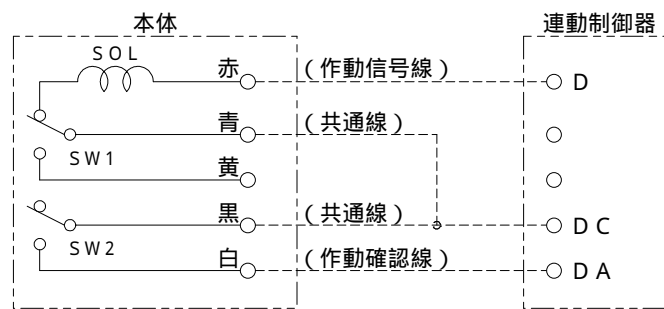
防火戸の開放保持（ストップ）方法（防火戸復帰状態）

電気作動信号による避難経路開口部の閉鎖完了状態から防火戸を開放保持（ストップ）する際は、本体の「リセットボタン」を押してから防火戸を戸袋に収納することで開放保持（ストップ）が完了します。「リセットボタン」を押さずに防火戸を戸袋に収納した場合は、防火戸を開放保持（ストップ）することはできません。また、連動制御器から電気作動信号を本体が受信している間は、「リセットボタン」を押してから戸袋に収納しても開放保持（ストップ）することはできません。手動解除による避難経路開口部の閉鎖完了状態から防火戸を開放保持（ストップ）する際は、本体の「リセットボタン」を押す必要はなく、防火戸を戸袋に収納することにより開放保持（ストップ）が完了します。

結線図

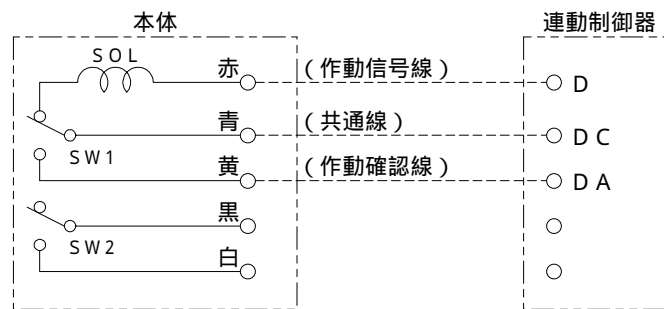
本体のリード線に極性（+、-）はありません。

(1) 通常の結線方法（電気作動前の状態を表示しています。）



手動解除時も作動確認表示を出力する回路です。

(2) 手動解除時に作動確認表示を出力しない場合の結線方法（電気作動前の状態を表示しています。）



黄色線（作動確認線）は、電気作動時に作動確認表示を出力し、手動解除時は作動確認表示を出力しない回路です。

N-78B型電磁リリース 取付要領図5/6

尺度	1/2	承認	三枝	検図	清水	設計	市川
			2012.08.04		2012.08.04		2012.08.04

ニッケイ株式会社 図番 AR-31619